



環境省報道発表

令和4年5月19日（木）

秋田県における高病原性鳥インフルエンザウイルス検査陽性事例に係る野鳥監視重点区域の解除について

<秋田県同時発表>

1. 秋田県大仙市における高病原性鳥インフルエンザウイルスの検出（家きん国内 22 例目、野鳥国内 94 例目の計 2 事例）を受け、それぞれ一部が重複する野鳥監視重点区域を指定し、野鳥監視を強化してきました。
2. その後、いずれの区域内においても野鳥の大量死等の異常は確認されなかったため、令和4年5月18日（水）24時に当該区域を解除しました。

<詳細は次ページ以降>

内容についての問合せ先
環境省自然環境局
野生生物課鳥獣保護管理室
代 表：03-3581-3351
直 通：03-5521-8285
室 長：東岡 礼治（内線 6470）
室長補佐：村上 靖典（内線 6675）
係 長：福田 真（内線 6670）
担 当：宮澤 結有（内線 6477）

■ 経緯

- 4月18日（月） ・ 秋田県大仙市の養鶏場において、死亡数の増加がみられたことから、当該農場から県に通報。県による簡易検査の結果、A型鳥インフルエンザ陽性と判明
- 4月19日（火） ・ 県によりPCR検査を実施した結果、H5亜型であり、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認（家きん国内22例目）
 - ・ 発生農場の周辺10km圏内を野鳥監視重点区域に指定し、野鳥の監視を強化
 - ・ 秋田県大仙市でハシブトガラス3羽の死亡個体を回収
 - ・ このうち1羽について簡易検査を実施した結果、A型鳥インフルエンザウイルスの陽性反応
 - ・ 回収地点の周辺10km圏内を野鳥監視重点区域に指定し、野鳥の監視を強化
- 4月19日（火） ・ 秋田県が野鳥緊急調査を実施
- ～4月22日（金）
- 4月20日（水） ・ 発生農場での防疫措置完了
- 4月28日（木） ・ 鳥取大学において死亡野鳥の遺伝子検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5亜型）が検出（野鳥国内94例目）
- 5月9日（月） ・ 鳥取大学で死亡野鳥のウイルス分離検査を実施した結果、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）を検出
- 5月18日（水） 24時 ・ いずれの野鳥重点監視区域内においても野鳥において異常が確認されなかったことから、上記2事例の発生に係る野鳥監視重点区域を解除（※）

※ 「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」に基づき、野鳥監視重点区域は、以下を1日目として28日目の24時に解除することとしています。

- － 野鳥及び飼養鳥の場合は、回収日の次の日を1日目とする
- － 家きんの場合は、防疫措置完了日の次の日を1日目とする
- － 環境試料（糞便、水等）の場合は、採取日の次の日を1日目とする

また、複数発生で野鳥監視重点区域の範囲が重なる場合は、最後の区域が解除される時に同時に解除することとしています。

■ 今後の対応

野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルは令和3年11月11日付けで「対応レベル3」に引き上げており、全国での野鳥の監視強化を継続します。

【参考情報】

環境省ホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。

http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/index.html

「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」

http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/pref_0809.html